

所属	社会福祉学部	職名	教授	氏名	斉藤 くるみ	大学院の授業担当の有無	(有・無)
授業科目							
社会福祉学部	英語B、人間の知性と感性I(教養基礎演習/手話から言語学へ)、人間の知性と感性の認識IV(ことばと脳/聴覚障害児の心理)、人間の知性と感性(ろう文化/聴覚障害教育特講)、障害児の心理・生理・病理、障害児教育課程論・障害児教育指導論、国際社会福祉論、専門演習、卒論指導						
専門職大学院							
大学院博士前期	専門英語I、専門英語II、社会福祉学研究演習Ia, Ib, II, III, IV						
大学院博士後期	社会福祉学専門研究演習Ia, b, c, II, III, IV, V, VI						
通信教育科							
教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日	概 要				
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) カルテを使った英語の個別指導 学際領域としての手話研究の導入 少数言語話者としてのろう者とろうコミュニティーの紹介 英語と国際社会福祉論の連携		2010～	<p>「英語」(福祉の英語、国際協力・国際政治をテーマとする英語、TOEIC対策)では毎回のテストを一目で見られる学生ひとりひとりのカルテを作成し毎回やりとりした。</p> <p>「教養基礎演習」「ことばと脳」「ろう文化」では手話研究から学際的な視点を示し、かつ語学としての「日本手話」の授業との関連を重視した。「ろう文化」ではイギリスで発祥した障害学の考え方と言語文化的アプローチを示し、かつ語学としての「日本手話」の授業との関連を重視した。</p> <p>国際社会福祉論につながる英語教材を利用した科目を設置した。そして国際福祉論、アジア実地研修に結び付けた。</p>				
2 作成した教科書、教材、参考書 『視覚言語の世界』(彩流社) 『少数言語としての手話』(東京大学出版会) 『媒介言語を学ぶ人のために』(世界思想社) 『コミュニケーションの力を伸ばすアドバイス』DVD ¹ とことばのバリアフリーをめざして ² を文科省GPにより作成 『手話による教養大学の挑戦』(ミネルヴァ書房)		2003(2005改訂増補)～ 2007～ 2009～ 2012～ 2017	<p>視覚言語を通して、言語コミュニケーションの理論を説明し、文化と言語の関係をわかりやすくまとめた。</p> <p>手話の言語性の証明、手話の芸術、手話と教育の関係等についてわかりやすく述べた。</p> <p>国際手話の発祥と役割について紹介し、ジェスチャーの言語化やビジョンについて述べた。</p> <p>文科省GP「ことばのバリアフリーを目指して」を獲得。福祉の大学でのコミュニケーション教育のための教科書・DVDを作成。</p> <p>本学の手話による教養大学の教員(ろう者)たちとの共著。言語学、法学、自然科学、心理学、経済学、歴史学等、多角的にろう者の権利と手話を考えた。</p>				
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 脳科学を福祉教育に活かす～コミュニケーション能力を高める授業を目指して(『日本社会事業大学研究紀要』57) 大学における日本手話の意義～リベラルアーツ教育・アイデンティティ教育からキャリア教育へ 聴覚障害者のスキルアップ・ステップアップのための書 記日本語教育法およびマニュアルの開発～エラーアナリシスを中心に		2010～ 2011～ 2015～	<p>認知科学的実験を行い、認知科学とコミュニケーションの関係を解き明かし、福祉教育に活かす方法を発表した。</p> <p>日本手話を中心にした大学教育の実践と新しいカリキュラムの開発。</p> <p>聴覚障がいをもつ学生のライティングのエラーアナリシスからメディアル教材を作った。</p>				
4 その他教育活動上特記すべき事項 日本手話による教養科目の設置 科目「情報保障」の設置 100%の情報保障 ろう・難聴の大学生のためのライティングサポート アジア研修旅行 コミュニケーションバリアフリー課程の開発 文科省委託事業「当事者に学ぶ視覚・聴覚障害者のセルフアドボカシープログラム」の実施		2010～	<p>全員ろう者である研究者による日本手話による教養科目をコーディネートした。</p> <p>聴覚障害をもつ学生の支援技術を指導する「情報保障」という科目を新設。</p> <p>学内の聴覚障害をもつ学生に100%の情報保障を提供した(日本財団助成)。</p> <p>本学の学生を含むろう・難聴の大学生を対象にレポート・論文の書き方を教えるライティングサポート・プログラム。</p> <p>ろう学生を交えたスマトラ沖地震最大の被災地バンダアチェでの研修、仙台での国連災害国際会議で、障がい者の防災対策会議、タイのろう協・HIV孤児施設・老人大学等、ベトナムのろう学校・児童養護施設等の研修、ネパールの大地震被災地の障害児学校・施設、フィリピンのろう学校・児童養護施設・老人ホームへろう学生を含む本学の学生を引率した。</p> <p>文科省BP(フラッシュアッププログラム)社会人対象のろう・盲ろう者の支援者養成課程の設置 当事者の連携会議を発足、視覚・聴覚障害者の学び直し等のための教材を作成した。</p>				

研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
< 著書・編著書 >					
< 研究論文・研究ノート >					
Japanese Sign Language as Interdisciplinary Studies and Liberal Arts	単著	2019	FLE Learning	Boston Conference Series: September 2019	16-25
< 調査・研究報告書 >					
「手話のオラリティとアジアろうコミュニティでの社会貢献への応用～フィリピン中部の手話」	単著	2020.3	社会事業研究所 https://www.jcsw.ac.jp/research/kenkyujigyo/gakunai-kyodo02/2019-1211-1552-29.html		
文部科学省委託実践研究「視覚・聴覚障害当事者に学ぶセルフアドボカシープログラム2019年度報告書」	単著	2020.3	https://self-advocacy.themedia.jp/		全197頁
< 翻訳 >					
< その他の執筆活動 >					
「日本手話の言語性」(下記基調講演記録)		2020.2	「大学教育研究フォーラム」25		20-29
学会等および社会における主な活動					
< 学会報告 >					
10th Academic International Conference on Multidisciplinary Studies and Education -AICMSE 2019	上記 "Japanese Sign Language as Interdisciplinary Studies and Liberal Arts Education" の要約				
< 講演活動 >					
大学教育研究フォーラム(立教大学全学共通カリキュラム運営センター)	基調講演「日本手話の言語性」(2019.12.6.)				
東京都中途失聴・難聴者協会	「聴こえない学生への進学支援～高等教育を受ける権利を支援する試み」(2019.11.23)				
獲得型教育研究会	講演「指先と表情の魔術－日本手話」(2019.11.24)				
< 所属学会 >					
International Society of Anglo-Saxon 日本手話学会 社会言語科学学会 大学教育学会 日本顔学会 多言語社会研究会 中世英語英文学会 障害学会 日本英語学会 日本社会福祉学会					
< 社会的活動 >					
日本学術振興会特別研究員等審査委員					
ろう・難聴高校生の進学塾	聴覚障害をもつ高校生の進学率をあげるべく、大学受験の指導を行った(日本財団助成)				
日本手話学会	副会長				
Pep-Net Japan	運営委員				
日本財団「聴覚障害者大学教育支援プロジェクト」	聴覚障害大学生の情報保障支援等				
文部科学省委託「障害者の多様な学習を総合的に支援する実践研究」「当事者に学ぶ視覚・聴覚障害者のセルフアドボカシープログラム」	視覚・聴覚障害者の学び直し及びピア専門職養成のプログラム開発				
Journal of Inclusive Education	a member of the advisory board and a reviewer				